

づけ—大阪市を事例に

第五章 京都における公設浴場の設立

第六章 東京における公設浴場の設立

終章

通読すると、本書が公衆浴場をレンズとして、日本の「近代」そのものを論じていることに気づく。著者は「あとがき」において、「公衆浴場というテーマは当初思い描いていた以上の、また想

像してもいなかった多様な景色を見せてくれるものであった」と述べている。本書によって、読者もまた、そんな公衆浴場の歴史の景色の広がりを見ることができるであろう。

(永島 剛)

[法政大学出版局, 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3, TEL. 03 (5214) 5540, 2016年8月, A5判, 320頁, 5,800円+税]

加藤四郎 編著

『小児を救った種痘学入門—ジェンナーの贈り物—』

緒方洪庵記念財団・除痘館記念資料室撰集として発行された『小児を救った種痘学入門—ジェンナーの贈り物—』を紹介します。本書は加藤四郎著『ジェンナーの贈り物—天然痘から人類を守った人—』（菜根出版, 1997年）を増補復刊したものである。加藤四郎編著とされている本書について、前著の復刊を強く願った加藤四郎さんが2015年9月に逝去されたのちとなった経緯を、緒方高志財団理事長が記している。緒方洪庵記念財団・除痘館記念資料室が、前著の内容を約18年の間の科学の進歩を踏まえて一部修正した第一部と、新たに加えた第二部よりなる。第一部のあとがきとして加藤四郎さんは「本書は小学校高学年および中学生向けに書いたものです。第二次世界大戦前（昭和二〇年以前）、日本ほどジェンナーの伝記について広く知られていた国はありませんでした。日本におけるジェンナーの知名度は、イギリス以上であったといえます。……」と述べている。紹介者は、今日、医療系の大学新生のうち牛痘種痘の開発者ジェンナーを答えられる者は数%しかいないことを最近聞きました。本書を読んでほしいとして加藤さんが書いた本書を小中学生に薦めても、理解して読んでもらうことは相当難しい時代になっていると考えます。むしろ大学生や、新しく医史学を学ぶ方にも読んで

ほしい内容であると考え紹介します。第一部にはウイルス学者の加藤四郎さんがジェンナーの事跡、博物館、ジェンナー像を訪ねる旅と、WHOの「全世界天然痘根絶宣言」に至る歴史が多数の図、写真とともに述べられている。

第二部は「幕末日本の蘭方医たち—天然痘との闘い—」として、次の各項よりなる。

1. 榎林宗建（米田該典）
2. 伊東玄朴（古西義麿）
3. 笠原良策（浅井充晶）
4. 緒方洪庵（浅井充晶）
5. 桑田立斎（古西義麿）

《コラム》大阪除痘館の種痘場風景（川上潤）

末尾の年表・文献を含めて160頁の小著であるが、広く読んでいただきたい好著が再版された。紹介者は前著『ジェンナーの贈り物』を幸いにも古書として入手し保存しているが、書棚の中ではほりをかぶることなく輝いている本です。

(渡部 幹夫)

[創元社, 〒541-0047 大阪市中央区淡路町4-3-6, TEL. 06 (6231) 9010, 2016年8月, 四六判, 160頁, 2,000円+税]